

従業員一人ひとりが自ら参画し、 緑の地球を守るための新しい取り組みが始まっています。

かけがえのない緑の地球を守るために。富士通グループでは、従業員が自発的に参画し、緑化活動などの環境ボランティアを推進。各事業所においても、行政や市民と連携した積極的な活動に取り組んでいます。こうした活動は国内の各地域から海外まで広がり、インターネットを使った新しい取り組みや、NGOや教育機関などと連携した活動もスタートしました。これからも、従業員一人ひとりが主役の環境貢献活動を続けていきます。

NGO・教育機関との連携

地球環境問題に取り組むNGO・教育機関などと連携し、共同研究やネットワークゲームを使った海外植林活動の支援など、新しい取り組みを始めています。

10年後、20年後の持続可能社会を描く、 武蔵工業大学との共同研究プロジェクト。

富士通と武蔵工業大学は、インターン実習プロジェクトとして、学生と社会人双方の視点から10年後、20年後の持続可能社会のあるべき姿を描き出し、これから企業などが何をなすべきかを検討する共同研究を行いました。今後の環境活動に役立てるために、業種別の中期環境行動計画を策定し、具体的な施策を抽出することを目標としました。

研究は、ドライビングフォース(推進要因)の抽出により2020年の未来像を作成する

ことから始まり、各業種からピックアップした企業の現状の環境活動の分析、そして世界的な循環型社会の形成をはかる独自ビジョン「ユニバーサルエコ・コネクション」の提言に至りました。

参加した学生からは、「企業の環境活動がどのようなものなのか具体的に見えてきた」「利益追求という企業の根本を踏まえた環境問題への取り組みの難しさを実感した」などの感想があげられました。



学生による研究



研究発表会

エコプロダクツ2002での出展

共同研究の成果として、環境シナリオプランニングにより描いた将来の持続可能社会の姿をパネルにまとめ、出展しました。さらに、研究の中で注目したリサイクル・メカニズムについて追跡調査した結果を冊子にし、会場にはリサイクルできないもの(ゴム、配線の皮膜、成分表示のないプラスチック)も展示。来場されたお客さまには、学生自らが研究成果を発表しました。



エコプロダクツでの展示風景

NGO、教育機関、企業とのその他のコラボレーション活動。

「2002富士通グループ環境ソリューションフォーラム」において(財)オイスカ(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)にご出展いただき、企業に向けたソリューションだけでなく、社会と融和したコンテンツの紹介を行いました。

また、早稲田大学理工学部への環境講座、(株)JTと連携した総合教育・修学旅行

カリキュラムの一つとしての環境講座や施設見学会など、教育機関に対する環境学習を積極的に企画開催しています。

この他、インターンシップとして年間数名程度の学生を受け入れ、実際の業務に携わりながら環境実務体験を提供しています。



早稲田大学での環境講座

**植林ネットワークゲーム「リズムフォレスト」で、
国際NGOオイスカが推進する「子供の森計画」を支援。**

富士通は、(株)ニフティ、(株)フォトンと協力して、(財)オイスカが推進する植林事業を支援するネットワークゲーム「リズムフォレスト」のサービスを提供しました。ゲームを通じた植林活動への貢献という新しい取り組みです。

「リズムフォレスト」は、@niftyのコンテンツとしてブロードバンド配信される、映像と音楽によるセッションゲームです。美しい海、大地、空が広がる仮想空間を舞台にセッションを繰り返すと、ゲーム世界が樹や花で豊かになります。本ゲームの毎月の利用料金のうち苗木1本分相当を(財)オイスカが推進する「子供の森計画」植林事業へ提供。東南アジアを中心とした植林拠点で現地の子供たちの手によって植樹されます。本ゲームへの参加を通じて、実際の植林活動に協力することができるのです。

富士通は、地球環境への貢献に向けたIT企業と国際NGOの新しい協力体制の試みとして、このプロジェクトを推進していきます。

リズムフォレスト

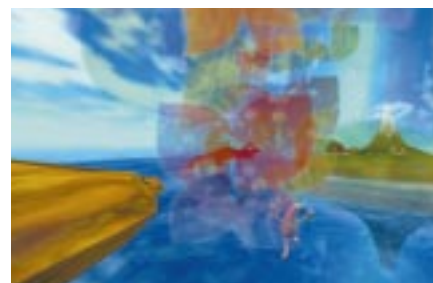
www.nifty.com/ref/

(財)オイスカ

www.oisca.org/

(株)フォトン

www.photon01.co.jp/



リズムフォレスト

©2003 フォトン



リズムフォレスト記念植樹苗木

©2003 OISCA



「リズムフォレストの森」植樹(タイ・ラノーン)

©2003 OISCA

(財)日本野鳥の会によるバードウォッチングの開催

「2002富士通グループ環境ソリューションフォーラム」において、(財)日本野鳥の会による、富士通川崎工場庭園バードウォッチングを開催しました。工場の中の庭園に鳥たちが生活し、身近な場所にも守るべき自然環境があることを、お客さまや従業員にバードウォッチングをとおして知っていただきました。



バードウォッチング



バードウォッチング

外部団体への協力・参画

広く環境保全活動に取り組むため、外部団体などへ積極的に参加しています。

- 社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
- 社団法人 神奈川県経営者協会 環境問題研究会
- 環境報告書ネットワーク
- 日本環境倶楽部
- 社団法人 産業環境管理協会
- 情報通信ネットワーク産業協会 環境保全委員会
- 社団法人 電子情報技術産業協会 環境・安全総合委員会
- 社団法人 電子情報技術産業協会 環境問題委員会 他

海外拠点での貢献活動

イギリス

富士通サービス (Fujitsu Services Holdings, ロンドン) では、近隣の高校や歴史遺産の保護団体、その他さまざまな非営利団体などに対して、ネットワーク設備や企業としてのノウハウなどを提供し、IT企業の特徴を活かした協力をを行っています。たとえば1998年よりメインスポンサーとして支援しているのが、環境に関する活動をとおして持続的な発展が可能な地域社会の構築をめざす団体“Groundwork Manchester”です。IT関連の設備やビジネススキルの提供、ホームページデザインの支援やIT研修の実施、安全衛生に関するアドバイスなど、具体的な貢献活動を続けています。

アメリカ

富士通ネットワークコミュニケーションズ (Fujitsu Network Communications, テキサス) では、テキサス州リチャードソンの Big Springs 小学校でのゴミ拾い活動に参画しています。2002年春には学校の環境クラブの生徒とともに学校周辺の清掃活動を実施しました。

1994年から続く同小学校とのパートナーシップは、環境に関する活動はもとより、学校図書館への本の寄贈・キャンプ活動や音楽鑑賞への支援・パソコンの提供など多岐にわたり、さまざまな形で青少年育成に寄与しています。

香港

富士通香港 (Fujitsu Hong Kong) では、(財)オイスカ主催の植林活動 (2001年より5カ年計画で実施) および香港国内での環境教育や自然保護にあてられるチャリティイベント「Green Hiking」などに積極的に参加しています。6月の「Green Day」には、環境活動の自主提案と実行を目的として、公共交通機関の利用、紙やペットボトルの使用削減、布バック利用などの環境活動を実施しました。



香港での植林

 チャリティイベント
「Green Hiking」


地域ボランティア活動

各事業所において環境ボランティア活動を実施。地域や行政と一体となった社会貢献活動を推進しています。

県立つづじが岡公園にて子房摘み (館林システムセンターなど)

富士通館林システムセンター、熊谷工場、労働組合熊谷支部を中心に、群馬県立つづじが岡公園で来年の開花を促進させるための子房摘み作業にボランティアで参加しています。子房を摘むことによって、花への栄養が十分行き渡るようになり、花を大きく美しく咲かせることができます。手作業による子房摘みは毎年恒例となっており、従業員とその家族を合わせて50名ほどが参加しています。



子房摘み作業

全社をあげた社会貢献活動への取り組み

(富士通サポートアンドサービス)

富士通サポートアンドサービス (Fsas) では、全社の重点活動テーマの一つに「社会貢献活動への参加 推進ブロック年1回以上」を掲げ、茅ヶ崎市小和田海岸の清掃、姫路城の清掃、大阪市が主催する「OSAKAクリーンピック」への参加など、各ブロックで地域と密着した活動を行っています。



小和田海岸の清掃活動

環境に配慮した設備の見学会

(富士通あきる野テクノロジーセンター)

環境に配慮した設備の見学会を実施し、間伐材を利用した食堂のテーブル・NAS電池設備・生ごみ肥料化装置などを興味深くご覧いただいています。また、生ごみ堆肥化に関しては、中学校での社会学習の一環として地元の生徒を受け入れ、環境教育の機会を提供しています。



青梅商工会議所の視察風景

西中学校の実習風景
(生ごみ封入作業)

海外植林活動

東南アジアでの植林プロジェクトを継続的に展開

富士通グループでは、生態系との共生をめざした「生物多様性緑化」として、東南アジアのグループ会社拠点であるタイ、ベトナム、マレーシアにて数年間にわたり植林活動を行っています。2002年度は、マレーシア・サバ州(ボルネオ島)キナラト地区に「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」を開設しました。

マレーシアでは、焼き畑農業や商業伐採などで森林が消失し、その再生が大きな課題となっています。サバ州キナラト地区も荒廃地が広がり、サバ州森林開発公社では森林回復のための植林を検討していましたが、経済面の問題などで実施が難行していました。今回、富士通グループの支援により、同パーク開設に至ったものです。実施にあたっては、富士通グループが、従業員の寄付をもとに今後2年間にわたり資金を継続的に提供し、ボランティアによる植林作業を行います。植林完了後は、サバ州森林開発公社に移管し、エコ・フォレストパークとして環境学習、エコ・ツーリズムなどの用途に活用されます。

11月末に富士通労働組合との共催で実施した第二次植林では、日本からのボランティア31名、マレーシア国内関連会社6社のボランティア24名の合計55名が参加し、フタバガキ種などの苗を植樹しました。

また、ベトナムにおいても8月に「富士通・ベトナム友好の森」プロジェクトで、20万本の植林を行い、99年度から開始しました当地プロジェクトの計画を完了しました。

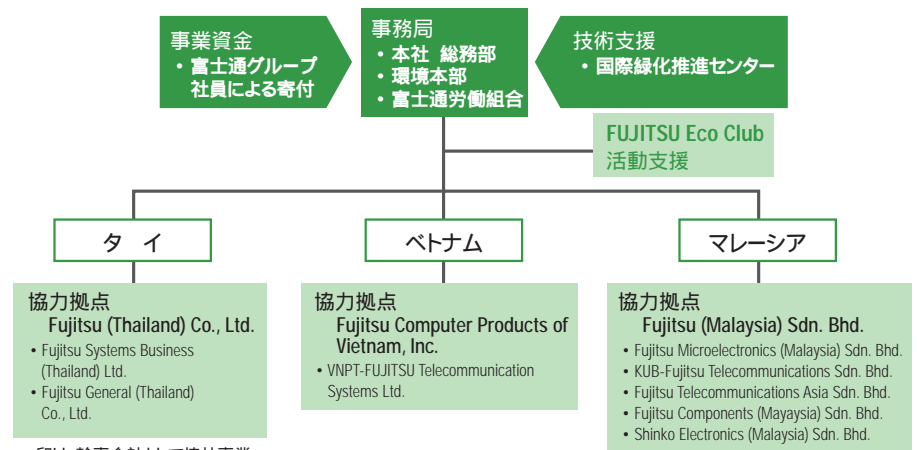
なお、これらの植林活動により2002年度は約571世帯¹分のCO₂を吸収していることとなります。

2003年度は、上記「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」にて第三次植林を開催する予定です。

1 一世帯あたり、年間CO₂排出量を6.2トン/年(使用量×排出係数)として2002年度のCO₂吸収量累積実績3,540トン/年より算出。
(出典:財団法人 省エネルギーセンター 平成12年度「民生用エネルギー消費機器効率改善調査報告書」)



海外植林活動の体制



印は、幹事会社として植林事業



マレーシアでの植林

